

St. Luke's International University Repository

Learning Effects in the “Comprehensive Studies (Opening the Door to the Liberal Arts)” : Nurturing Cultivated Minds with Specialized Knowledge

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊田, 文夫, Kikuta, Fumio メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016739

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



短 報

「総合科目（教養の扉をひらく）」における学びの効果 —専門性に立つ教養人の育成を目指して—

菊田 文夫

Learning Effects in the “Comprehensive Studies (Opening the Door to the Liberal Arts)” : Nurturing Cultivated Minds with Specialized Knowledge

Fumio KIKUTA

[Abstract]

Since the 2017 academic year, the University has been offering comprehensive courses in the liberal arts with the aim of deepening students' learning in order to foster a broader understanding of the human condition, as well as to nurture cultivated minds with specialized knowledge. In this elective course for first-year students at the School of Nursing, professionals active in various fields outside of medicine are invited to share their personal experiences by giving lectures on various topics, such as how they continue to pursue their own professional development and how they apply their own expertise in society. The course also provides a forum for the students attending these lectures to share their thoughts with one another.

This study sought to clarify the nature of the learning and awareness that students acquired in the course by means of classifying the contents of student reaction papers submitted at the end of classes in the 2022 academic years. As a result, among the learning and awareness that students took away from the course were “a positive way of life characterized by a willingness to challenge oneself without fear of failure,” an appreciation of “the importance of relationships and living in relation to others,” “a broad-minded perspective that tolerates diverse values,” “a sincere way of looking at things that is able to take things as they are without judgement,” a belief that “persistence and consistency in one's way of life shape one's character,” and a belief that “cultivation is something that can be applied to one's own life.”

[Key words] General Liberal Arts, University Students, Teaching Effectiveness, Cultivated Minds with Specialized Knowledge

[要 旨]

本学では、人間そのものを広く理解するための学びを深めるとともに、専門性に立つ教養人の育成を目指して、2017年度から、教養科目「総合科目」を開講している。看護学部1年生を対象とするこの選択科目では、医療以外のさまざまな分野で活躍している専門職業人に、プロフェッショナルとして自らを高め続けていく生きかたや、自らの専門性を社会にどのように活かしているのか、などについて、自身の体験を交えた講義をお願いするとともに、これらを受講した学生同士がその感想を分かちあう場を提供している。

本研究は2022年度の受講生が毎回の授業後に提出したリアクションペーパーの内容を分類することによって、受講生がどのような学びや気づきを得ているのか、を明らかにすることを目的としている。そ

の結果、受講生は、「失敗を恐れずに挑戦する前向きな生きかた」、「他者とのかわりの中で生きる、ご縁の大切さ」、「さまざまな価値観を受け止める広い視野」、「これだと決めつけずに、ありのままにとらえる素直なもの観かた」、「生きかたへのこだわり、一貫性が、人をかたちづくる」、「教養は自分の人生に活かせるもの」などの学びや気づきを得ていることがわかった。

【キーワード】 一般教養、大学生、授業効果、専門性に立つ教養人

I. はじめに

近代の高等教育においては、高度な専門性を追求するための教育が重要視され、教養教育についてはおざなりにされてきた。しかしながら、2008年度の中央教育審議会の答申¹⁾で、学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針として、各専門分野を通じて培う「学士力」が提示されると、高等教育における教養教育の重要性が問われることとなった。また、この答申では、それぞれの大学が規定する学習成果の目標については、21世紀型市民としての幅の広さや深さを持つものとして、設定することが重要であるとしている。さらに、「専門家の知恵－反省的实践家は行為しながら考える」を著したドナルド・ショーン²⁾は、「省察的实践」によって、プロフェッションは生涯にわたって深められていくもの、そして、「すべての考察の基礎に真の教養と人間理解が必要だ」と述べている。また、寺崎³⁾は、対象を理解し、新たな実践を紡ぎだしていくためには人間というものの理解が求められるが、受験勉強その他の、いわゆる偏差値を上げることに適応した勉強の中では、これを育むことは難しいと指摘している。これらの点を鑑み、本学において、人間そのものを広く理解するための学びを提供し、省察的实践に価値をおく生きかたの醸成を目指して、2017年度から「専門性に立つ教養人の育成」を目標とした一般教養選択科目「総合科目」を開講している。この科目の到達目標は、次の4つである。

到達目標1.ひとつの事象をさまざまな視座から客観的に観察することにより、自然や人間の営みについて探求し、それらについて考察できるようになる。

到達目標2.これまでに体験したことのない事象について、具体的にイメージできるような想像力を身につける。

到達目標3.看護の専門性に立つ教養を自ら深めようとする態度を身につける。

到達目標4.専門分野の知識に縛られない看護専門職者として成長し続けるために、省察的な実践を自らの生きかたに取り入れようとする動機づけと態度を身につける。そこで本報告では、この授業の到達目標の観点から、授業の効果を検証するとともに、将来に向けてより良い授業を創り上げていくための示唆を得たい。

II. 目的

本稿は「総合科目」の受講生が提出したリアクションペーパー（最終レポート）に記述されている内容を整理、分析することによって、この授業の効果と、将来に向けた改善点を探る目的で行う授業実践報告である。さらに、本報告は、看護専門職者を育成する本学において「専門性に立つ教養人」を育む方策を得るための貴重な基礎的検討の機会となり、また、本学に在籍する学生が将来にわたって、自らの専門分野を超えた外生的な諸問題に向き合うために不可欠な、新たな「知」を創造するための智慧を獲得する基盤について考究する実践報告として位置づけられる。

III. 方法

本研究では、表1に示すシラバスに基づいて開講した2022年度の「総合科目」（表1）を受講した本学の学部生37名が提出したリアクションペーパー（最終レポート）を対象とした。本報告の目的を達成するため、最終レポートに含まれる質問項目のうち、「授業から受けとることができた、大切にしたい宝もの」と「授業で学んだことを、今後の人生にどのように活かしたいと思うか」に記載のあった内容から、この科目の到達目標に関連した記述を抽出、カテゴリー化して、この授業の効果について検証した。さらに、この科目の到達目標以外に「専門性に立つ教養人」としての素養を身に着けるために重要と考えられる概念について探索した。

なお、本報告にあたっては、本学の学習支援システム「manaba」を通じて、対象となる37名の受講生に、最終レポートの記述内容を資料として活用する旨の依頼を行い、承諾をいただいている。

IV. 結果

2022年度の「総合科目」受講生が、「授業から受けとることができた、大切にしたい宝もの」と「授業で学んだことを、今後の人生にどのように活かしたいと思うか」について記載されている内容から、この授業の効果としてとらえられる内容について整理し、10個のカテゴリー

表1 2022年度「総合科目（教養の扉をひらく）」シラバス

講義テーマ	担当講師
第1回 この科目が目指すもの	菊田 文夫
第2回 哲学的教養を身に着ける効用 —自律的思考力の涵養	佐々木 一也（立教大学名誉教授）
第3回 異文化コミュニケーション ～多文化共生を可能にする	鳥飼 玖美子（立教大学名誉教授）
第4回 メダル獲得までの軌跡, そして, これから	三井 梨紗子（リオデジャネイロオリンピック アーティスティックスイミング（シンクロナイズドスイ ミング）銅メダリスト）
第5回 時代を読み, 人を知る ～未来を拓く君たちへ	倉品 武文（日本経済新聞社・編集委員）
第6回 「食」から生まれる人との繋がり ～出会いが育む技術と創造力	森 健一（株式会社グローヴディッシュ・代表取締役） 萩原 敦彦（同 エグゼクティブシェフ） 水越 義行（同 シニアソムリエ）
第7回 ゲノムから見た“わたし”とは誰か？	太田 博樹（東京大学理学系研究科）
第8回 体で・えほん・ごはん・ごはん	長野 ヒデ子（絵本作家）
第9回 パンデミックの経済学	星 岳雄（東京大学大学院経済学研究科）
第10回 法律家として, 若者に伝えたいこと	木澤 克之（弁護士・元最高裁判所判事）
第11回 心と身体をつなぐアート	金田 卓也（大妻女子大学家政学部）
第12回 クロネコ・宅急便を徹底解明して, 「看護サービスの神髄」について考える	有富 慶二（ヤマトホールディングス株式会社・元代表取締 役社長）
第13回 宝塚で学んだ, 清く正しく美しく, そしてたくましい生き かた	天野 裕子・悠未 ひろ・桜 一花（元宝塚歌劇団）
第14回 聴き手の想像力を高める話術	立川 晴の輔（落語立川流 志の輔一門）
第15回 ふり返り・分かちあい	菊田 文夫・立川 晴の輔

に分類した結果を表2に示す。(表2)

これによると, カテゴリー 1【失敗を恐れずに挑戦する前向きな生きかた】に関する記述が最も多く, 受講生の4割以上を占めている。次いでカテゴリー 2【これだと決めつけずに, 物事をありのままにとらえる】が21.6%, カテゴリー 3【生きかたへのこだわり, 一貫性が, 人のかたちづくる】とカテゴリー 4【自分の好きなことや得意なことを見つけて伸ばす】がともに10.8%, カテゴリー 5【自分の行動が他者に影響を及ぼす】, カテゴリー 6【他者とのかかわりの中で生きる, ご縁の大切さ】, カテゴリー 7【さまざまな価値観を受け止めるための広い視野】, カテゴリー 8【想像力の大切さ】, カテゴリー 9【教養は自分の人生に活きるもの】, およびカテゴリー 10【自分で考える, 自分で決める】が, それぞれ8.1%であった。

V. 考 察

この科目の4つの到達目標に関連する学びの効果について, 得られた10個のカテゴリーと関連づけて述べる。まず, 到達目標1「ひとつの事象をさまざまな視座から客観的に観察することにより, 自然や人間の営みについて探求し, それらについて考察できるようになる」を達成するために必要と考えられる学びについては, カテゴリー 2【これだと決めつけずに, 物事をありのままに

とらえる】と, カテゴリー 7【さまざまな価値観を受け止めるための広い視野】の授業効果が寄与できると考えられる。また, 到達目標2「これまでに体験したことのない事象について, 具体的にイメージできるような想像力を身につける」についてはカテゴリー 8【想像力の大切さ】が, 到達目標3「看護の専門性に立つ教養を自ら深めようとする態度を身につける」についてはカテゴリー 9【教養は自分の人生に活きるもの】が, それぞれの到達目標を達成するための学びに寄与できると考えられる。そして, 到達目標4「専門分野の知識に縛られない看護専門職者として成長し続けるために, 省察的な実践を自らの生きかたに取り入れようとする動機づけと態度を身につける」に関係の深い授業効果については, カテゴリー 5【自分の行動が他者に影響を及ぼす】とカテゴリー 6【他者とのかかわりの中で生きる, ご縁の大切さ】の寄与が示唆される。

さらに, カテゴリー 1【失敗を恐れずに挑戦する前向きな生きかた】に関する記述が受講生の4割以上を占めていることから, たとえ夢や目標があっても, これまでは失敗を恐れて挑戦することなくあきらめようとしていた学生が数多く含まれていることがうかがえる。この授業を受講して, 挑戦なくして成功は訪れないこと, 失敗を恐れずに挑戦することによって結果がどうであっても人は成長できると感じられたことが, 失敗を恐れずに挑戦し続けるという生きかたの醸成につながると考えら

表2 最終レポートから読み取れる受講生の学びや気づき（受講生37名）

カテゴリー	具体的な記述の例	回答者数 (%)
1. 失敗を恐れずに挑戦する 前向きな生きかた	<ul style="list-style-type: none"> ・大切にしたいものは、失敗しても諦めない力である。お話しくださった先生方のほとんどがご自身の挫折や壁にぶつかった際のエピソードを話してくださいました。どのような人にも必ずそのような経験はあるわけで、それをいかに乗り越えるかがその人の今後を決めるきっかけとなると学んだ。 ・何事も恐れずに挑戦してみることで、今まで予想もしていなかった結果が待ち受けているかもしれないし、新たな自分や目標に出会えると気づきました。 ・今私が恐れる小さな失敗は将来の私への投資であることを確信することができた。何事にも恐れずに挑戦してみようと思われ背中を押された気がした。 ・夢や目標があっても、どうせできないと思い、何も取り組みもせずに諦めてしまうことなどがありました。しかし、授業を通して何事も挑戦してみることが大切だと知りました。 ・分かちあいの会から、失敗を恐れずに挑戦することによって結果がどうであっても人は成長できると感じた。 	17 (45.9)
2. これだと決めつけずに、 物事をありのままにとらえる	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを学ぶときに自分が正しい、こんなことはもう知ってると思うのではなく視野を広げて聞くことで新しい学びをたくさん得られるということを知った。 ・無意識のうちに自分の価値観や考え方を当たり前と思い込んでしまっているのだと気づいた。 ・医療として、深い教養を持ち客観的に科学を使う、また、物事を先入観のない目で見るために教養が不可欠であるということを知ることができた。 ・ひとつの事象を様々な視座から客観的に観察する姿勢が大切であり、物ごとを素直に、ありのままに受け取る感性を高めていきたいと思う。 ・「自分は看護学生だ」ということを考えずに授業を受ける方がいいと思いました。看護学生という枠にとらわれて、医療の視点から授業を受けていると吸収できることが少なくなってしまうと思ったからです。 	8 (21.6)
3. 生きかたへのこだわり、 一貫性が、人をかたちづくる	<ul style="list-style-type: none"> ・総合科目でお話しくださった全ての方に共通して、それぞれ自分の仕事や生き方、そして考え方に一貫性があると感じた。そして、その一貫性がその方の核、人生の中心になっていると感じた。そしてこのように、自分自身の「芯」があることによって自分の人生に意味づけがなされるのだと私は考えた。 ・全体の授業を通して、誰かのために生きることは素敵なことだと思いました。特別講師の方々はそのために誰かのために生きている、と私は強く感じ、だからこそこんなに輝いているのだと理解することが出来ました。 ・今の積み重ねで未来ができるのだと、総合科目全体を通して感じた。自分の目的は見失わず、毎日を積み重ねることが大事だと思う。 	4 (10.8)
4. 自分の好きなことや得意な ことを見つけて伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中に得意とする分野を見つけその道を突き詰めることのできる人になりたいと強く思った。 ・自分のしたいことややりたい姿に素直になって生きていくことは、結果的に自分の夢をかなえるための近道になるのだと感じました。 ・自分のやりたいことや自分の感性に素直になること。大学に入って新しい場所や環境ということもあり、周りの目や周りの人がどう感じるかばかりを気にして、自分の好きなものを好きとまっすぐに言えないことがあった。だが、自分の中から自然と湧き出てくる感情を大切にすればストレスもなくなるし、また、何よりも自分の幸福度も高くなるので、人にも優しくできるような気がした。看護など人に尽くすためには、自分を犠牲にするのではなく、自分の幸福度を満たすことが大切だと感じた。 	4 (10.8)
5. 自分の行動が他者に影響 を及ぼす	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの何気ない言動や思いが与える影響の大きさについて、衝撃を受けました。優しさが他の人へ渡され、優しさが循環していることに気づきました。 ・それぞれの分野で活躍される方々は何かしらの形で他者の人生に幸せや彩りを与えていることを学んだ。 	3 (8.1)
6. 他者とのかかわりの中で 生きる、ご縁の大切さ	<ul style="list-style-type: none"> ・人間は人とのかかわりの中で生きているということを実感できた講義であると思います。 ・世の中は様々な人が絡み合っていて成り立ち、自分もその一員だということ意識していきたい。 	3 (8.1)

7. さまざまな価値観を受け止めるための広い視野	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に寄り添う看護をしなければならない存在であるにも関わらず、看護という学問を深めれば深めるほど市民から離れてきてしまっている。看護師である前に一市民でなければならない私にとって社会の広さを実感できる総合科目は貴重な講義だった。 ・人にはそれぞれの人生があることをすごく身近に実感できたと思った。 ・自分とは異なった価値観を持つ人を否定するのではなく、視野を広げる良いきっかけとして捉えていきたい。自分の生きている世界はまだまだ狭く、知らないことが多くあることを知り、物事を受け入れる姿勢を保つことが重要だ。 	3 (8.1)
8. 想像力の大切さ	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前の人に対して目に見えないサービスを提供する点や、相手の立場に立って物事を考える点や、人の心に働きかける点といったところに共通点があると気づいた。 ・他者から与えられる単純なメッセージから、その奥に隠された意図や想いを読み取ることで真の理解が成り立つと思います。 	3 (8.1)
9. 教養は自分の人生に活かすもの	<ul style="list-style-type: none"> ・教養を身に着けることは自分自身の価値観に気づき、自分を深く知ることにもつながると感じた。教養から得る学びには知識だけでなく、自分自身と向き合うという側面もある。 ・教養は人生において自分を助けると私は考える。教養は、判断の基準になる。人生は判断の連続で、その判断はその後の人生に大きな影響をもたらす。その判断を自分にとって良いものにするためには、教養がとても大きな役割をもたらす。そのために、この授業で身に着けることのできた教養は人生においての宝だと考える。 	3 (8.1)
10. 自分で考える、自分で決める	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、答えのないものや人によって答えが様々になる問題を扱うことになり、自分で考えなければならない場面が増えてきた。これからは自分でじっくり考える時間をとり、想像力や発想力を磨いていきたい。 ・想像力や考える力があると人生が豊かになるということが分かった。 ・人生の選択肢を考え、自分で決断して思い描く人生をおくることができるようにしたい。 	3 (8.1)

れる。さらに、カテゴリ 3【生きかたへのこだわり、一貫性が、人をかたちづくる】、カテゴリ 4【自分の好きなことや得意なことを見つけて伸ばす】、カテゴリ 10【自分で考える、自分で決める】という学びの成果は、ひとり一人の受講生が自分の個性を活かしたライフデザインを形づくる上で、貴重な糧となる。

以上、この科目の到達目標を達成するために必要と考えられる学びの成果が、受講生の最終レポートの記述から読み取れる結果を得た。

一方、『これほど刺激的で、これから先の人生で何度も思い出して反芻する授業はこの「総合科目」において他にはないといえるであろう。そのような意味で、「一生忘れない」授業を受けることが出来たと強く思う。』や『今後授業で学んだことがどのように活かされていくのかと言うことは正直なところ分からない。いつ何時、授業で学んだことが血肉となり、わが身を助けるのか今から想像することは出来ない。しかし、少なくとも私の将来の希望をかなえる上で、必ず活かすことが出来ると信じている。』という受講生の記述にも目が留まった。これらの記述は、この授業で学んだことが今すぐに役立つ

と実感できるものではなくても、これからの長きにわたる人生のさまざまなライフイベントにおいて、言わば自分らしい人生を歩むための道標となる、と確信していることを示唆しているのではなかろうか。

昨今の高等教育に関する授業評価については、とかく短期的な視野で優劣をとらえる傾向にある。しかしながら、これらの記述に触れて、長期的な視野で授業の効果について見まもる意義を改めて強く感じた。

引用文献

- 1) 文部科学省中央教育審議会. 学士課程教育の構築に向けて(答申): 第67回総会(2008年12月24日) [Internet]. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm [参照 2022-10-22]
- 2) Schön, DA (佐藤学, 秋田喜代美訳). 専門家の知恵: 反省的实践家は行為しながら考える. 東京: ゆみる出版; 2001.
- 3) 寺崎昌男. 専門的実践と教養の関係を考える. 日本オスラー協会ニュース. 2013;68:9-14.